



© SHIN MATSUNAGA

デザイン 松永真

制作年 2000（平成 12）年

松永真 まつながしん 1940（昭和 15）-

グラフィックデザイナー。東京・高輪に生まれる。父は書家。東京芸術大学美術学部デザイン科を卒業後、資生堂宣伝部に入社し 1971 年独立。グラフィックワークはもとより、パッケージデザイン、ブックデザイン、企業の C・I など活動は旺盛にして幅広く、そのシンプルにして鮮烈なデザインワークをもって、70 年代から今日に至るも日本を代表するデザイナーの一人に数えられる。顕著な業績として資生堂のサマーキャンペーン、ISSEI MIYAKE、国立西洋美術館の CI 計画などがある。また例えば 1982 年に装丁を手がけた「日本国憲法」(小学館)は 100 万部を超えるベストセラーになり、あるいはティッシュペーパー「SCOTTIE」のパッケージデザインなど、その仕事は私たちの日常の暮らしや社会生活の少なからぬ範囲に波及している。ニューヨーク近代美術館(米)、ヴィクトリア&アルバート美術館(英)、東京国立近代美術館など世界各国 70 箇所以上の美術館に作品が収蔵され、1996 年には個展「グラフィック・コスモス-松永真 デザインの世界」が全国巡回した。東京 ADC 賞、毎日デザイン賞、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞、芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、亀倉雄策賞など多くの受賞歴がある。

このデザイン意匠も当館の大切なコレクションの一つです。

松永先生には、合併前の旧河口湖町のシンボルマーク(96年)や、やはり町の施設「河口湖ミュージアム」(93年)や「河口湖ステラシアター」(95年)のロゴも手がけていただけていて、97年の秋には、全国を巡回した展覧会「グラフィック・コスモス」を当館でも開催することができました。そんな縁もあって松永先生もこの小さな町を気に入って下さっていたご様子だったのですが、そういえばこの美術館もそろそろ開館して 10 年だなあ、などとぼんやり思っていた頃に、このロゴマークが生まれました。それまでは展覧会の宣伝物や封筒にワープロのあかぬけない文字で「河口湖美術館」とあらわしていたのが、ほんとの美術館みたいなカッコいいロゴができて皆うれしかったです。

